

資料 3

グループ討論関係資料

火山防災協議会等連絡・連携会議(第7回)
グループ討論について

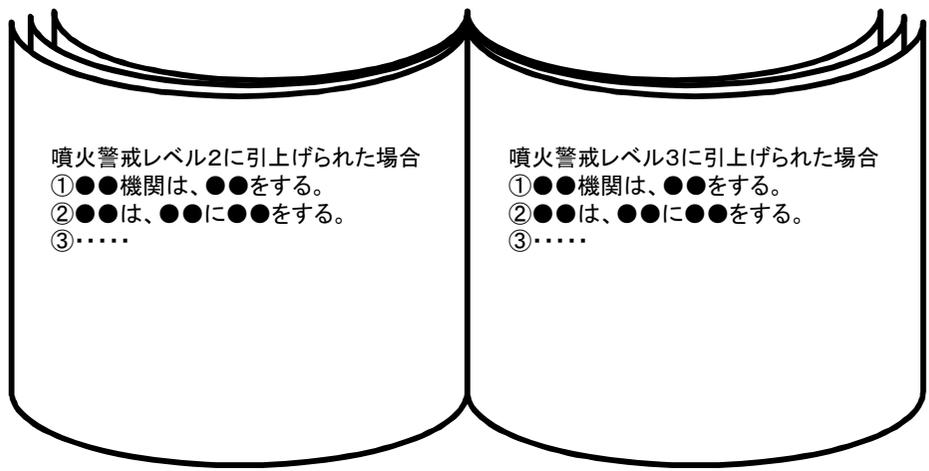
◆グループ討論の趣旨

- 火山単位の統一的な避難計画には、気象庁の発表する情報や火山活動の状況等に応じて、協議会構成機関が行う防災対応が整理されている。
- その防災対応の流れと具体を、協議会構成機関の間で整理・共有することが、整合のとれた火山防災対応をとるために重要である。



そこで、本グループ討論では、地元火山地域で防災対応の流れを整理・共有する方法の1つとして、架空の火山を設定し、火山活動の状況や气象台等の対応の時系列を材料に、その火山において考えられる防災対応について、時系列で整理を行うものである。

<避難計画>



<防災対応の時系列整理>

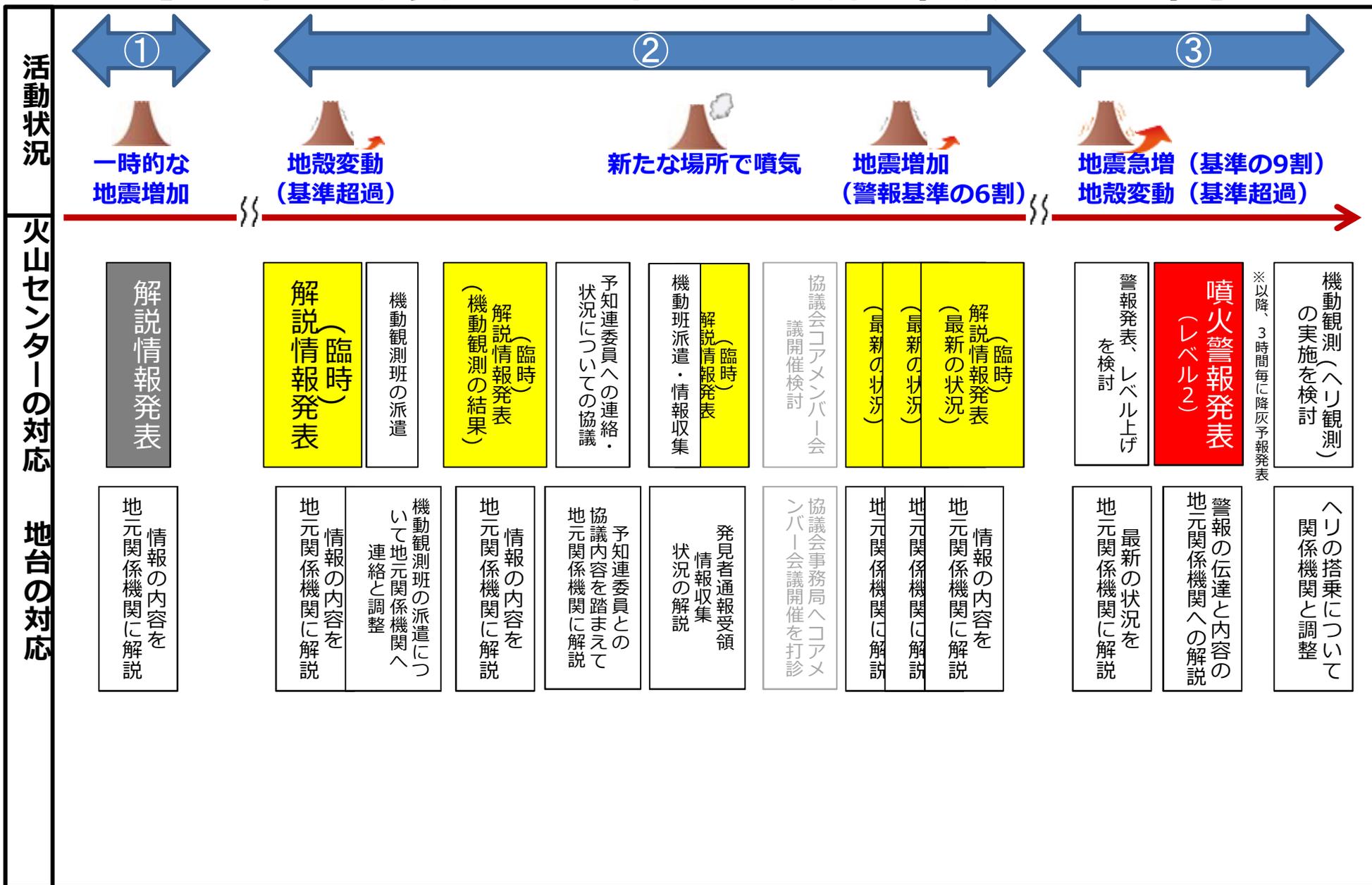
火山活動の推移	③ 地震増加 (警報基準の6割)		③ 地震急増 (基準の9割) 地震変動 (基準超過)		
火山センター・气象台	目録 臨時 角解 解説	○○が ○○を実施	警報、レベル 上げを検討 解説	噴火警報発表表 (L2) 警報の伝達	機動観測班の実施検討 関係機関と調整
都道府県				県が 情報を伝達 各機関に	
市町村		市が 規制の準備を依頼 道路管理者に	市が 広報する 住民・観光客に	市が 規制を依頼 道路管理者に	
関係機関		道路管理者が 看板を準備		道路管理者が 看板を設置	

※ 今後、各火山における整理・検討のため、気象庁から「火山活動の推移と气象台等の対応の時系列」が提供される予定。 1

グループ討論に用いる
火山活動の推移と、火山センター・気象台の対応のモデルケース

【モデルケース】火山の活動状況に応じた防災対応の流れ

【活動状況により予測的に警報を発表する例（モデルケース1）】



①一時的な火山性地震の増加などにおける対応

レベル上げを検討するまでには至らないが火山活動に注意しているときにその状況を伝えるために火山監視・警報センターは「火山の状況に関する解説情報」を発表する

参考例：

- 火山性地震が増加しているが他のデータに変化がない
(⇒今すぐに何かがあるとは考えていないが今後注意)
- 火山近傍で有感地震を観測したが火山活動には変化がない(⇒今のところ心配ない)
- そのほか、流言飛語の打ち消しなど

②レベル上げを検討する状況における対応

火山活動に変化があり、レベル上げを検討する状況の場合、火山監視・警報センターは、「火山機動観測班の派遣」「火山の状況に関する解説情報(臨時)の発表」「火山噴火予知連委員への連絡」等を行う

レベル上げを検討する状況の参考例

- レベル上げに繋がるような火山性地震の増加
- レベル上げの複数基準のうち、一つの要素が基準を超えた
- そのほか、観測データの状況からレベル上げの可能性を伝える必要がある場合

なお、「臨時」を付した情報は、レベル上げを検討する状況にあるということを伝えるものであり、その状況が終わる(レベルを上げるor静穏へ向かう)まで「臨時」を付した情報の発表を継続する

③活動が活発化して予断を許さない状況における対応

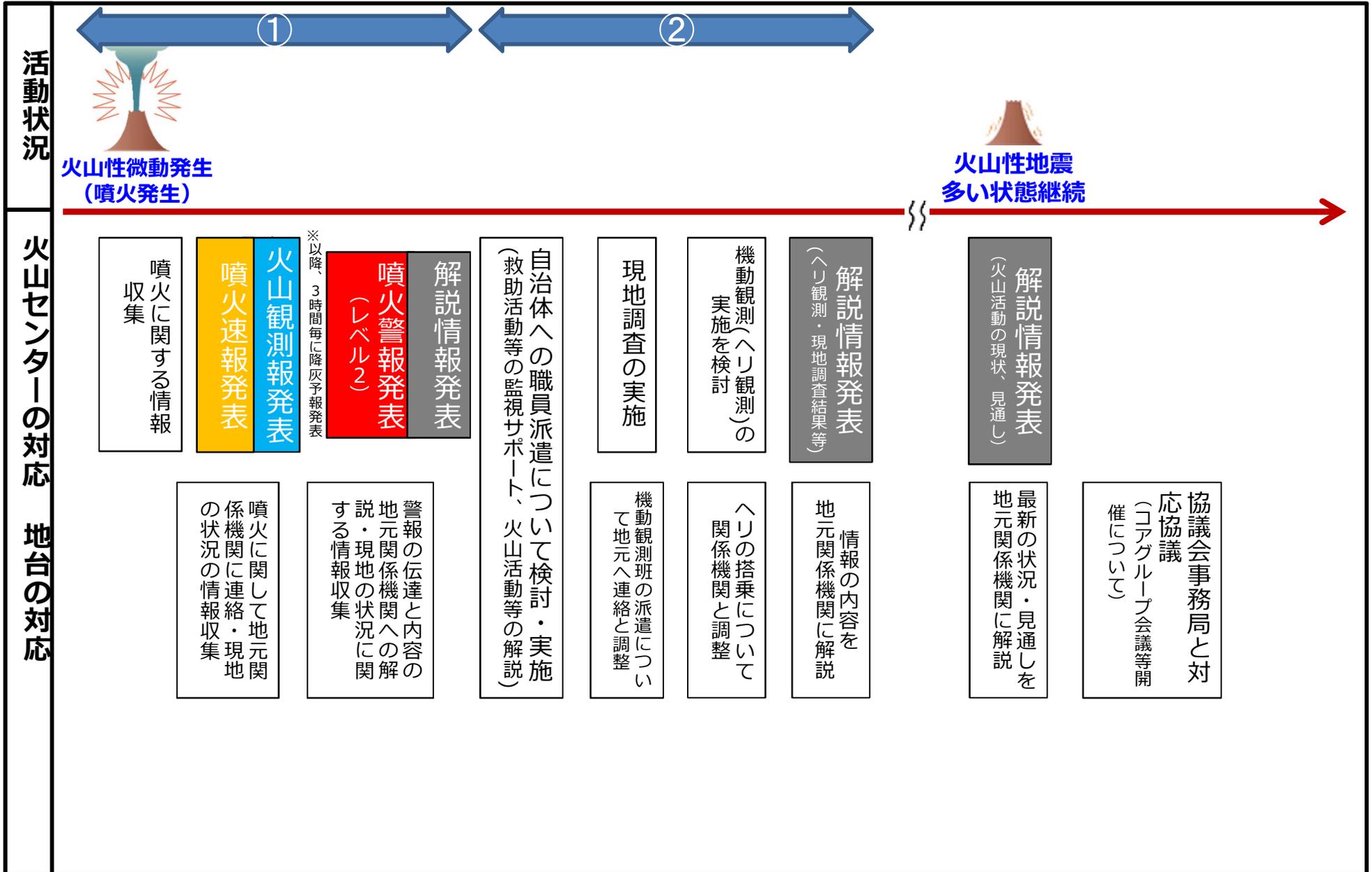
火山活動が活発化し、観測データがレベル判定基準を超える、あるいは超える可能性が高い状況となった場合、火山監視・警報センターは噴火警報を発表する

噴火警報発表時の気象台の対応

- 地元自治体への連絡(可能な限り事前の連絡)
- 地元自治体等への解説
- へり観測を含めた機動観測の実施

【モデルケース】 火山の活動状況に応じた防災対応の流れ

【突発的な噴火時の例（モデルケース2）】



①突発的な噴火における対応

突発的な噴火が発生した場合、火山監視・警報センターは、監視カメラや観測データから噴火の事実を確認し、ただちに噴火速報を発表するとともに、警戒範囲を付した噴火警報を発表する。

※観測データから噴火の判断が困難な場合は、火山監視・警報センターは地元関係機関に状況を問い合わせる。

- ・噴火発生の有無
- ・噴火の発生場所
- ・噴火による影響範囲等

②自治体への支援など現地への職員派遣の対応

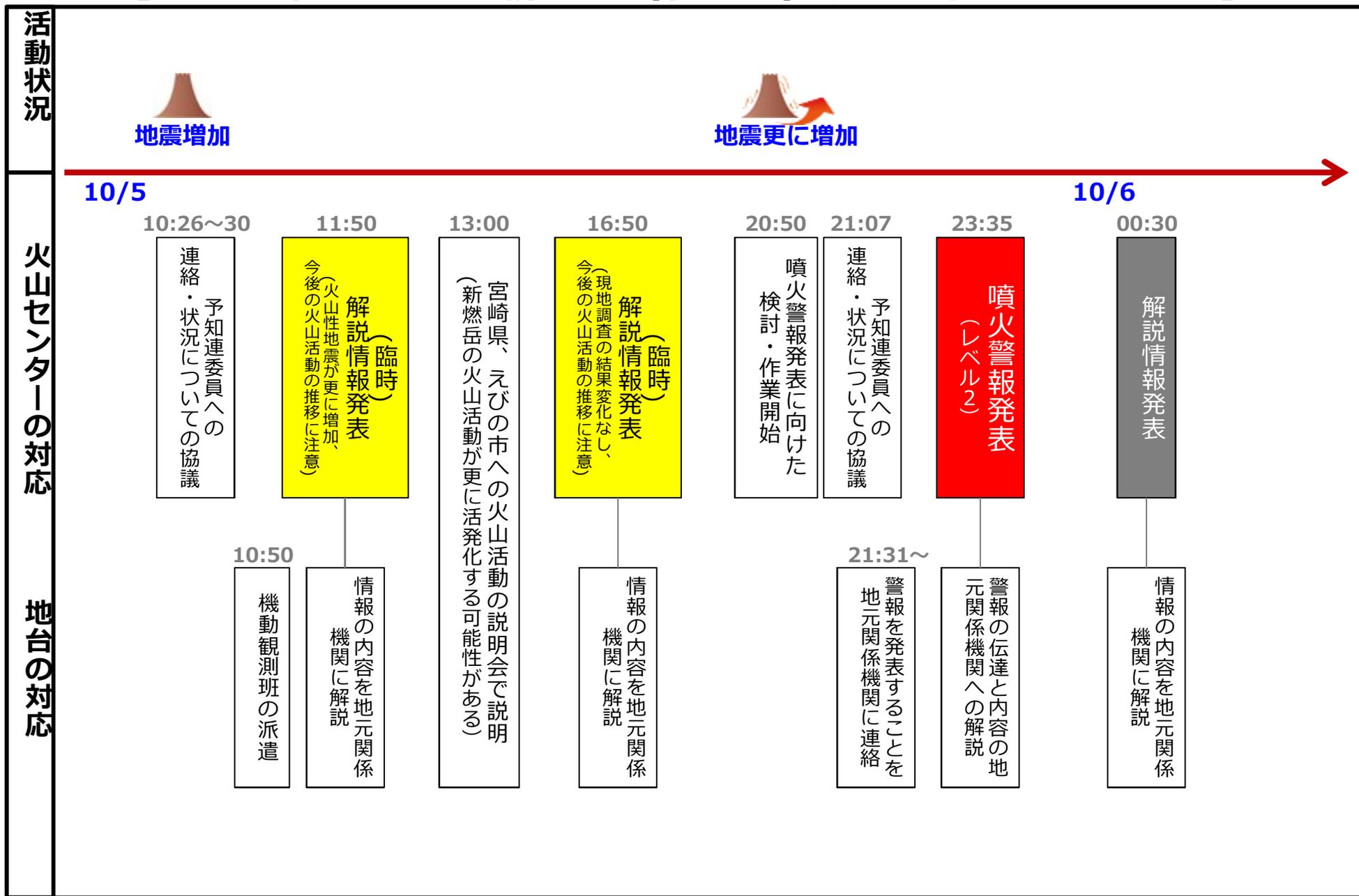
地方気象台及び火山監視・警報センターは、救助活動や住民避難への支援のために職員を派遣。また、火山状況の詳細な把握のために機動班を派遣。

- 支援業務内容
 - ・火山状況の解説
 - ・気象状況の提供

- 火山の状況把握
 - ・機動班による現地調査
 - ・へり観測

【参考】 火山の活動状況に応じた防災対応の流れ

【 2017年10月5日 霧島山（新燃岳） 噴火警報発表時の対応】



本日のグループ討論の進め方

各班に配布している物

- 火山防災マップ
- 避難計画(概要版)
- 噴火警戒レベル判定基準
- 火山防災情報解説資料
- 防災対応記入票×多数
- 火山防災対応整理様式×2枚
- テープ、マジック

◆ 討論ステップ①

- 上段に示されている火山活動の推移、火山センター・気象台が発表する情報や実施する防災対応に対して協議会構成機関が行う防災対応を、別紙の避難計画をもとに検討する。

＜防災対応記入票＞

主体 (誰が)	
対応内容 (何をする)	
その連絡先 (依頼先や 伝達先等)	

検討した防災対応を記入

＜火山防災対応整理様式＞

班	火山防災対応整理様式 No.2					
火山活動	地震増加 (警報基準の6割)		地震急増 (基準の9割) 地震変動 (基準超過)			
火山センター・気象台	<small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル1)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル2)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル3)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル4)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル5)</small>	<small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル6)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル7)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル8)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル9)</small>	<small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル10)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル11)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル12)</small>	<small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル13)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル14)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル15)</small>	<small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル16)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル17)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル18)</small>	<small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル19)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル20)</small> <small>噴火警報発令 (噴火警戒レベル21)</small>
都道府県						
市町村						
関係機関						

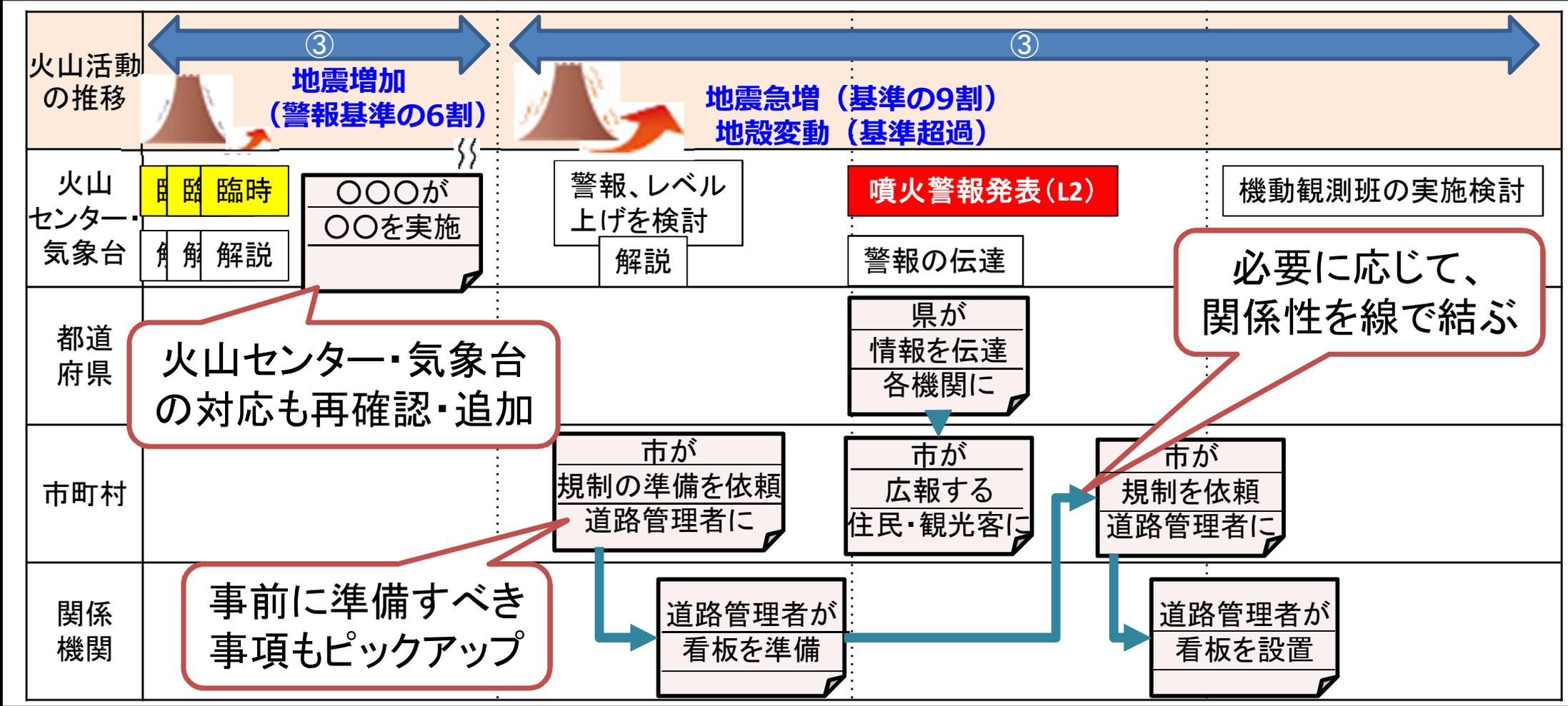
票を様式に貼り付ける

討論のポイント！

- ✓ 自分たちの避難計画や噴火対応経験・知見などを活用しながら記入

◆ 討論ステップ②

- 検討した防災対応について、事前に準備すべき対応や関係する対応を線で結び、活動手順を具体化していく。



- ### 討論のポイント！
- ✓ 実施する主体は妥当か、防災対応を実施するタイミングは妥当か確認
 - ✓ 連携すべき関係機関は妥当か確認